

豊中市立第十五中
学校だより

一期一会

ICHIGO ICHIE

しばし休養
来週も元気で!



全校生534人でスタート 190人の1年生を迎えて



→満開下の入学式でした。花壇等の環境も素晴らしいです。多くの雀や鳥が、戯れているのも良いなあと感じます。

入学式、始業式、離任式、

授業や部活動、給食もスタートし、最初の5日間が終わろうとしています。

教室にグラウンドに体育館に若い声がこだまする……春休みの沈黙が終わり、学校が始まったと実感する日々です。

11日のクラス写真撮影では、ビオトープ前に設置したひな壇の後ろの桜もまだ咲き続けており、柔らかな日差しがさしていました。

1年生は初々しい制服姿、2年生は頼もしく成長した姿、3年生は立派な最上級生の姿だなあと、みなさんの顔を見ていました。

来週には緑色の葉桜となり、春も進んでいくでしょう。私たちの学校生活も少しずつ進んでいきます。仲間とともに歩みをすすめていきましょう。

入学式の学校長のことばで述べた4つのことについて、まとめられた形でお伝えします。

①自分と向き合うこと

中学校時代は可能性の塊です。その可能性はどこにあるのか。5年後、10年後の皆さんはどのような才能が開花しているのか……毎日の中で、

自分と向き合う小さな時間を大切にしたいと考えます。みなさん一人ひとりが、かけがえない存在であり、良さを持っています。自分を見つめ、その良さを伸ばせる中学校時代であって欲しいと思っています。

②次に体験を積み重ねること

部活動や運動、芸術活動の体験、その他の自然体験等から学ぶことは、机上の学習とともに重要です。

自分で課題を見つけ、解決に向かっていく、さらにその過程で新たな課題や目標が生まれてくる……。

繰り返す挑戦の中で、あきらめない姿勢や工夫する態度が養われ、成長につながっていくことでしょう。

③そして、良き師と出会うこと

将棋の藤井聡太8冠は小学校4年生のときに、杉本昌隆8段に弟子入りしました。



藤井8冠の力をここまで伸ばしたのは師匠のおかげにほかならないのですが、杉本8段は「教える、教わるの関係だけでなく、自分で学ぶこと」を重視したそうです。

良き師(先生だけに限らず、友人や先輩、書物等)と出会い、自分で学んでいくことが大切と言えます。良き師と出会ったら、師の教えも大切ですが、自分で考えることも大切です。

学校の教員、生徒の間も、師弟という関係だけでなく、ともに学び、敬う関係でありたいと考えています。

④世界や社会に関心を持つこと

毎日の生活の中で、広く世界や社会の出来事に目を向けることも大切にしてほしいです。

地球環境問題、戦争、貧困、多様性、少子高齢化社会……世界や日本、もう少し身近な私たちの住む地域の状況や課題に目を向けることです。自分や学校から視点を広げ、課題に目を向け、考え、行動できる力、良くしていこうとする力です。

世界や社会に目を向ける中で、10年後、20年後にこうありたいという自分の姿も浮かびます。さまざまな人たちと共に生きる世界をめざして。

スマホ・SNSとのつきあい方

- 画面の向こうにいる大切な人のために、次のことを忘れないようお願いいたします。
- LINE等での知人・友人との連絡は、送信する時間帯・回数等に気をつけ、内容では人を傷つけたり、うわさや根拠のない話を広めたりしないようにしましょう。
- Instagram等での発信や投稿は、保護者の監督のもとされるべきと考えます。特に、不特定の方への公開や発信の場合は、個人情報にも気をつけましょう。
- もし、自分や友達が犯罪に巻き込まれたり(巻き込まれそうになったり)した場合は一人で悩まず、大人・家族に相談しましょう。
- YouTube、ゲーム等のコンテンツにのめり込みすぎないように、時間に気をつけましょう。



●二期一会は、これまでのタイトルを引き継ぎました。十五中生、教職員、地域の方々との出会いとこれからを大切にしたい思いをこめて。